

名大医学部学友時報 2018 6

目 次

1. 准教授就任	木村 宏之 (2)	6. 支部だより	三重県支部総会 (12)
	加藤 真史 (3)	7. 人生山あり谷あり	井口 昭久 (12)
2. 人事トピックス	内藤真理子 (4)	8. 診療体制一覧表 (2)	 (13)
3. 会員寄稿	永井 美之 (5)	9. お詫びと訂正	 (15)
4. プレスリリース	土方 靖浩 (6)	10. 学友大会ご案内	 (16)
	小林 朋子 (8)	11. 編集後記	 (16)
5. 第 30 回日本医学会総会 2019 中部			
	長谷川好規 (10)		
	樫尾 富二 (10)		



鶴舞公園菖蒲池

(時報部撮影)

准教授就任

脳神経病態制御学講座 精神医学

きむら ひろゆき
木村 宏之

〈略歴〉

平成6年3月 東京慈恵会医科大学医学部卒業
 平成6年4月 名古屋第二赤十字病院 研修医
 平成8年4月 名古屋大学医学部附属病院精神科 医員
 平成10年4月 あいせい紀年病院
 平成13年4月 名古屋第二赤十字病院精神科
 平成16年4月 名古屋大学医学部附属病院精神科 助教
 平成21年10月 名古屋大学医学部附属病院精神科 講師
 平成30年4月 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野 准教授

〈業績〉

1. Yasuharu Onishi, Hirofumi Kimura, Hidemi Goto, Norio Ozaki, Yasuhiro Ogura et al Risk of alcohol use relapse after liver transplantation for alcoholic liver disease. World Journal of Gastroenterology 2017, 23(5): 869-875
2. Tatsuya Tokura, Hirofumi Kimura, Mikiko Ito, Kenichi Kurita, Norio Ozaki et al Temperament and character profiles of patients with burning mouth syndrome. J Psychosom Res 2015, 78(5): 495-498
3. Hirofumi Kimura Psychoanalytic psychotherapy for patients with chronic physical diseases. Japanese Journal of Psychoanalytical Psychiatry 2015, 7: 29-38
4. Hirofumi Kimura, Yasuharu Onishi, Yasuhiro Ogura, Tetsuya Kiuchi, Norio Ozaki et al Postoperative psychiatric complications in living liver donors. Transplantation Proceedings 2015, 47(6): 1860-1865
5. Hirofumi Kimura, Keizo Yoshida, Tatsuya Tokura, Kenichi Kurita, Norio Ozaki et al Plasma Levels of Milnacipran and Its Effectiveness for the Treatment of Chronic Pain in the Orofacial Region. Hum Psychopharmacol 2012, 27(3): 322-328

学友会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平成30年4月1日付けで名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野の准教授を拝命いたしました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

私は平成6年に東京慈恵会医科大学を卒業し、名古屋第二赤十字病院でローテート研修を開始しました。研修医として、終末期癌患者、慢性身体疾患患者、摂食障害患者の声に耳を傾けるうち、彼らが心に大きな不安を抱えながら病と闘っていると実感しました。しかし、勇気づけたり安心させたりするだけでは、どこか表面的で、十分にサポートできませんでした。その後、総合病院精神医学に興味を持ち、平成8年に名古屋大学精神科に入局させていただきました。精神科の専門研修中に面接技能の必要性を痛感し、平成9年から精神療法 Psychotherapy のトレーニングを開始しました。その中で成田善弘先生に師事することができ、平成15年に日本精神分析学会認定精神療法医の資格を取得しました。

平成16年に名古屋大学医学部附属病院精神科に赴任させていただき、幸運にも尾崎紀夫教授の勧めでリエゾン（連携医療）

の臨床研究をスタートすることができました。耳慣れない言葉かもしれませんが、リエゾン（連携医療）とは、特定の診療科と多職種カンファレンスを継続しながら対象の身体疾患全例に関与することにより、精神症状の軽減のみならず身体疾患の改善を目指す治療方法です。当初は、頭頸部癌、肝移植、慢性疼痛の3領域でスタートしましたが、現在の精神科は、多くの診療科とリエゾン（連携医療）活動ができるようになっています。

肝移植領域では、移植外科と協力させていただき、ドナーやレシピエントに併存する精神医学的問題を中心に臨床研究をしております。特に精神医学的評価が問題になるアルコール性肝不全に対する肝移植の心理社会的基準（名古屋大学版）を作成には苦慮しました。この名大基準は、平成23年9月から日本脳死肝移植適応評価委員会における適応基準に採用され、さらに日本のアルコール性肝不全に対する肝移植全症例の心理社会的適応基準の検討（Hepatol Res 2014）に唯一の精神科医として参加させていただきました。他には、自らの臓器を提供するドナーの意思決定に関する全国調査（Am J Transplantation 2016）に参加したり、日本総合病院精神医学会の臓器不全・移植関連委員会委員長を拝命して肝移植実施10施設の共同研究の中核的役割を担ったりしております。

慢性疼痛領域では、平成11年から愛知学院大学歯学部口腔外科と共同研究をさせていただき、現在まで1000例以上の慢性疼痛患者に関する臨床研究を中心に活動しています。具体的には、Serotonin Noradrenalin Reuptake Inhibitor による介入研究、慢性疼痛患者のパーソナリティの検討、神経炎症関連物質の検討、慢性疼痛患者／慢性疼痛障害モデル動物の連携研究などをすすめております。

精神療法領域については、平成25年に日本精神分析学会認定精神療法医スーパーバイザーになり、若手の精神科医や心理士に面接技能のトレーニングを行っています。また、日本精神分析学会の医療問題委員会委員長を拝命し、仲間といっしょに医療領域における精神療法の啓発に努めております。

最期になりましたが、誤解を恐れずに申し上げれば、かつての精神医療は、その特殊性を旗印に、閉じた世界の中で臨床活動していたように思います。私は、尾崎紀夫教授のご指導や同門の先生方のご支援もあって、閉じた世界に留まることなく、リエゾン（連携医療）を通じて他診療科に開かれた精神医療を実践できるようになりました。ここに改めて深謝いたします。これからも謙虚な姿勢で臨床活動を続け、少しでも名古屋大学の発展に寄与できたらと思っています。

学友会の皆様には、今後もご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

准教授就任

病態外科学講座 泌尿器科学

かとう まさし
加藤 真史

〈略 歴〉

平成 8 年 3 月 神戸大学医学部卒業
平成 8 年 4 月 岡崎市民病院研修医
平成 10 年 4 月 名古屋大学医学部泌尿器科
平成 11 年 4 月 名古屋大学大学院医学系研究科入学
平成 14 年 3 月 学位取得 (名古屋大学)
平成 15 年 10 月 University of California, San Francisco (UCSF), Fellow
平成 16 年 4 月 名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学 助手
平成 17 年 4 月 社会保険中京病院泌尿器科医長
平成 22 年 4 月 名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学 助教
平成 24 年 10 月 名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学 講師
平成 30 年 4 月 名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学 准教授

〈業 績〉

1. Kato M, Kimura K, Hirakawa A, Kobayashi Y, Ishida R, et al. Prognostic Parameter for High Risk Prostate Cancer Patients at Initial Presentation. The Prostate 2018 Jan; 78(1):11-16.
2. Kato M, Tsuzuki T, Kimura K, Hirakawa A, Kinoshita F, et al. The presence of intraductal carcinoma of the prostate in needle biopsy is a significant prognostic factor for prostate cancer patients with distant metastasis at initial presentation. Mod Pathol. 2016 Feb; 29(2):166-73.
3. Kimura K, Tsuzuki T, Kato M, Saito AM, Sassa N et al. Prognostic value of intraductal carcinoma of the prostate in radical prostatectomy specimens. Prostate. 2014 May; 74(6):680-7.
4. Kinukawa T, Kato M, Terasaki PI, Ozawa M. Retrospective antibody analysis of thity patients with kidney graft failure. Clin Transplant. 2007; 291-303
5. Kato M, Matsuguchi T, Ono Y, Hattori R, Ohshima S. et al. Characterization of CD28(-)CD4(+) T cells in living kidney transplant patients with long-term allograft acceptance. Hum Immunol. 2001 Dec; 62(12):1335-45.

学友会の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。この度、平成 30 年 4 月 1 日付けで名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学分野の准教授を拝命致しました。ここに謹んでご挨拶を申し上げます。

私は平成 8 年に神戸大学医学部を卒業し、岡崎市民病院で研修時に絹川常郎先生（現 JCHO 中京病院院長）および服部良平先生（現名古屋第一赤十字病院部長）が部長として在籍されており、両先生のご活躍に接し外科的治療と内科的治療をあわせもつ泌尿器科に入局することに決めました。その後名古屋大学泌尿器科学教室に帰局し大島伸一先生（国立長寿医療センター 名誉総長）の厳しくも且つ心温まる御指導のもと、泌尿器科医としての基礎を根底から学びました。合わせて名大における泌尿器科としての生体腎移植立ち上げにも末席ながら関わらせていただき、松尾清一先生（現名大総長）や丸山彰一先生（現腎臓内科教授）ら腎臓内科の先生方と泌尿器科が共同で腎移植患者を診察する現在の診療体制の基礎

作りに参加させていただきました。

大学院では名古屋大学生体防御教室に籍をおいて吉開泰信先生（九州大学生体防御教室名誉教授）のもとで、移植の免疫寛容について CD28 や TCR の多様性を含め現代の I-O drug とも重なる co-stimulatory signal に関して、ヒト末梢血リンパ球を用いた実験を御指導いただきました。留学先の UCSF では移植外科の fellow として脳死下臓器摘出を経験しながら同時に、現在でも第一線で活躍中の米国の臨床泌尿器科医で唯一の日本人 professor であった、篠原克人先生に師事し前立腺癌の brachytherapy を学び、帰国後名古屋大学での導入を主導させていただきました。

平成 17 年から JCHO 中京病院で絹川先生御指導のもとで、思う存分臨床医として経験をつまさせていただきました。多くの腎移植症例のみならず一般泌尿器科症例を経験することができました。また同時期に絹川先生の留学先であった UCLA の故 Paul Terasaki 先生と一緒に仕事をさせていただく機会を得ることができました。現在では日本でも普及していますが、当時米国でもまだ実験的に行われていた Donor specific HLA 抗体を検出する Solid-phase assay である LABScreen を用いた研究に参加させていただきました。Terasaki 先生は米国移植学会でも、当時演説にきていた大統領候補でもあったクリントンと並んで賞賛されながらスピーチをする雲の上の様な存在の方で、直接訪問するだけでワクワクしていたことを今でも覚えています。

その後、平成 22 年に現泌尿器科教授後藤百万先生のもと名古屋大学付属病院泌尿器科へ助教として戻ることとなりました。ダヴィンチによるロボット手術開始に関わらせていただき、前立腺癌・腎癌を中心に 100 例以上の症例を経験させていただきました。また同時期より都築豊徳先生（現愛知医科大学 病理診断科教授）と共同研究を行う機会を得られました。現在前立腺癌領域において予後不良因子のみならず治療効果予測因子としても期待される IDC-P (intraductal carcinoma of the prostate) につき、多数の報告をまとめさせていただき自分たちの論文が WHO の規約改定にも引用文献として取り上げられるまでになり、光栄に思っております。

愚直に手術を含めた日常臨床を続けながら研究を行っている毎日です。これまで多くの先生方にご指導いただき現在の自分があると考えておりますのでこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後も名古屋大学の皆様の御発展に少しでも貢献することができればと考えております。学友会の皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

人事トピックス

広島大学大学院医歯薬保健学研究科口腔保健疫学 教授

ないとう まりこ
内藤真理子

〈略歴〉

1991年3月 九州歯科大学卒業
1991年6月 産業医科大学歯科口腔外科 専修医(1993年8月まで)
1996年1月 九州歯科大学小児歯科 助手
1997年4月 九州歯科大学小児歯科 研究生
2001年9月 京都大学大学院医学研究科健康情報学分野 厚生労働科学研究リサーチレジデント
2004年7月 名古屋大学大学院医学系研究科附属医学教育支援センター 助手
2005年9月 名古屋大学大学院医学系研究科予防医学/医学推計・判断学 助手
2007年5月 名古屋大学大学院医学系研究科予防医学/医学推計・判断学 講師
2010年11月 名古屋大学大学院医学系研究科予防医学 准教授
2018年4月 広島大学大学院医歯薬保健学研究科口腔保健疫学 教授

〈業績〉

1. Suma S, Naito M, Wakai K, Naito T, Kojima M, et al. Tooth loss and pneumonia mortality: A cohort study of Japanese dentists. PLoS One. 2018; 13: e0195813.
2. Okada R, Naito M, Hattori Y, Seiki T, Wakai K, et al. Matrix metalloproteinase 9 gene polymorphisms are associated with a multiple family history of gastric cancer. Gastric Cancer. 2017; 20: 246-253.
3. Hattori Y, Naito M, Satoh M, Nakatochi M, Naito H, et al. Metallothionein MT2A A-5G Polymorphism as a Risk Factor for Chronic Kidney Disease and Diabetes: Cross-Sectional and Cohort Studies. Toxicol Sci. 2016; 152: 181-193.
4. Naito M, Suzukamo Y, Wakai K, Azechi M, Kaneko F, et al. One-year period prevalence of oral aphthous ulcers and oral health-related quality of life in patients with Behçet's disease. Genet Res Int. 2014; 2014: 930348.
5. Naito M, Nakayama T, Okamura T, Miura K, Yanagita M, et al. Effect of a 4-year workplace-based physical activity intervention program on the blood lipid profiles of participating employees: The High-risk and Population Strategy for Occupational Health Promotion (HIPOP-OHP) Study. Atherosclerosis. 2008; 197: 784-790.

学友会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。この度、2018年4月1日付で広島大学大学院医歯薬保健学研究科教授を拝命いたしました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

私は1991年に九州歯科大学を卒業後、歯科医として臨床に従事し、卒後10年目に社会医学系の研究者として新たなスタートを切りました。そのきっかけとなったのが、臨床疫学への興味でした。母校で博士号取得後、京都大学に移り、医学研究科健康情報学分野の中山健夫助教授(現・同教授)の下で、ヘルスリテラシーや研究倫理に関する研究に従事しました。3年間の研究員生活を経て、2004年に名古屋大学予防医学教室の助教として着任し、以降14年間に渡ってお世話になりました。

2005年に文部科学省の研究費による日本多施設共同コホート研究が開始され、予防医学教室は中央事務局と3つのコホート地区の運営を担当しています。本研究は全国で10万人の参加者を登録し、2025年まで約20

年間追跡を行うゲノムコホート研究です。次世代に繋がる大規模研究の中央事務局長やコホート地区責任者を務めさせていただいたことは、かけがえのない貴重な経験となりました。また、京都時代に福原俊一先生(京都大学教授)にご指導いただいたQOL研究は、ライフワークとなりました。藤田保健衛生大学の才藤栄一教授のご指導の下、QOL研究を摂食嚥下分野に展開できたことは、とても幸運であったと考えております。

愛知県は疫学者の層が厚いことが全国的に知られています。1978年から続く疫学懇話会をはじめ、恵まれた学習環境の下、幅広い分野の研究者や臨床家の方々とつながりを育むことができました。青木國雄先生(名古屋大学名誉教授)ならびに浜島信之先生(名古屋大学医療行政学教授)に温かなご指導を賜り、研究者としての在り方をはじめ、多くのことを学ばせていただきました。女性研究者リーダーシップ・プログラムにもお世話になりました。これまでご指導、ご支援いただきました先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

広島大学は「自由で平和な一つの大学」という建学の精神を基盤に、「平和を希求する精神」や「絶えざる自己変革」を理念として掲げています。シルバーの葉で縁取られた美しい緑の学章は、生命とフェニックスの葉が図案化され、原子爆弾で廃虚となった広島市に新たに生まれた広島大学を象徴するものとなっています。平成26年度スーパーグローバル大学創成支援のタイプA(トップ型)13大学のひとつに採択されており、越智光夫学長の強いリーダーシップの下、様々な改革が進められています。

着任先の歯学部では、歯科3職種(歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士)の社会歯学教育を担当しております。歯学科はアジア諸国の歯学部生を継続的に受け入れており、2年次から5年次まで殆どの授業が英語・日本語併用制となっています。これは全国唯一のユニークなシステムであり、日常的に両言語に囲まれた環境となっています。国際連携強化に向けて積極的に活動を行っており、先日、名古屋大学国際連携室の粕谷英樹教授にもご講演をいただきました。

今後は、広島大学の発展に向けて医療者や研究者の育成に力を尽くすとともに、研究者としてもいっそう精進を重ねていきたいと存じます。名古屋大学、学友会の先生方と、様々な観点から連携、交流を深めさせていただければ幸いです。益々のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。